

朝日池 (中頸・大潟町)

■環境：湖沼
 ■対象：家族
 ■期間：秋～春
 特に11月～12月

高田平野(頸城平野)の北部にあり、海岸から2km離れた面積45haの農業用水池。ガン・カモ類とワシ・タカ類はこの地域随一の越冬・中継地で、貴重種も多い。近くの鶺鴒の池とともに、朝日池の西側樹林など「大潟都市公園」計画がすすめられている。

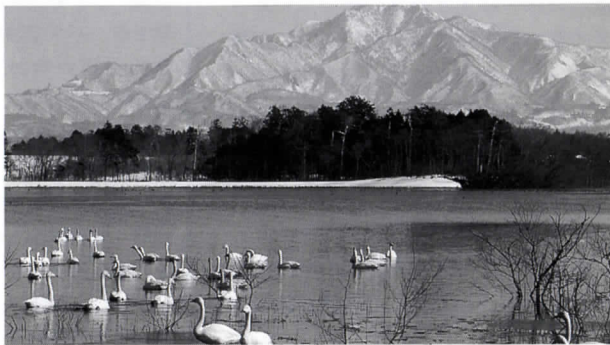
<天然記念物のマガンとヒシクイ>

ヒシクイは早ければ9月半ば、普通9月下旬には第一陣が渡ってくる。マガンは少し遅れ、10月に入ってからやってくる。

いずれも朝日池をベースとし、高田平野北半分の頸城水田地帯を餌場に、越冬地または中継地として渡来する。その数は最大時にマガン500羽以上、ヒシクイ1500羽以上。秋空にこれらガンの大群が餌場から帰ってくる光景は圧巻だ。マガンとヒシクイが同時に見られるのは、県内でもごく限られている。

<カモの種類も豊富>

秋～春のシーズンを通してみると、この地域で海上に現れるものや渡来地に限られるもの以外、ほとんどのカモ類が渡来する。最も多いのはマガモで、最大1万羽、ほかは多くても1000羽は

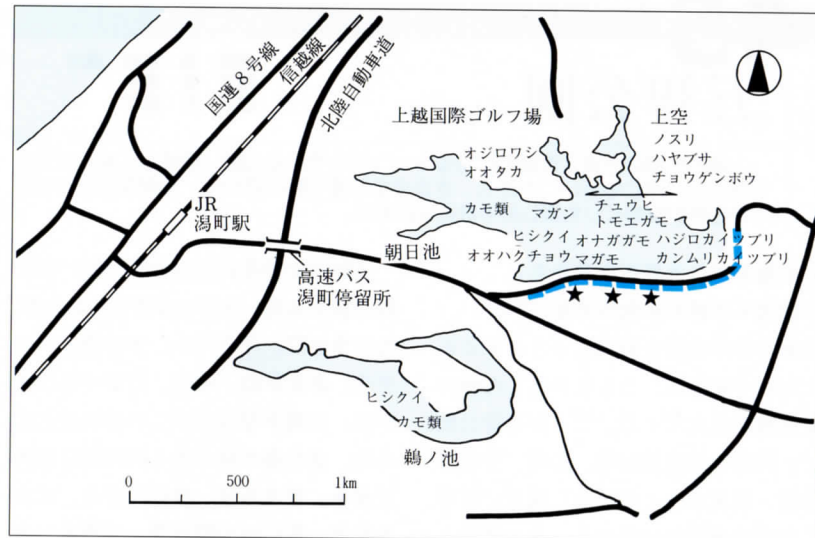


朝日池から米山を望む

ど。時にオナガガモやトモエガモが1000羽以上入ることもある。比較的近に見られるので、カモ類の野外識別に最適である。特に秋口に渡ってきたものはまだエクリプス(非生殖羽)で、種や雌雄の区別が付きにくい。じっくり見て識別できるようにしたい。

<その他の水鳥類も>

ハクチョウ類はオオハクチョウ、コハクチョウ共に渡来するが、多くても100羽余りで、定着越冬はしていない(餌付けはしていない)。またカイツブリ類ではカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリなど、サギ類ではダイサギ、



チュウサギ、コサギ、アオサギなどが飛来する。また水が落とされて底が見れるとシギ・チドリ類も飛来するが、その種類と数は多くない。時にカモメ、ユリカモメ、アジサシ、クロハラアジサシ、ウミウなども入ってくる。バンは少ないがオオバンは毎シーズン渡来し、多い時は40羽以上になる。

<ワシ・タカ類もよく現れる>

天然記念物のオジロワシは毎シーズン(12月～2月)ペアで渡来し越冬する。またミサゴがよく現れて、豪快なダイビングで魚を捕らえて飛び去っていく。他にオオタカ、ノスリ、チュウヒ、ハヤブサ、コチョウゲンボウ、チョウゲンボウなどが時々池周辺の樹林、鉄塔、水田に現れ、その雄姿を見せて

くれる。

(山本 明)

メモ

交通 JR 湯町駅より徒歩25分/北陸自動車道高速バス湯町停留所より徒歩10分。

☐ 近くに駐車場・トイレはない。車は南岸道路のわきに置く。この南岸道路わきから望遠鏡も使って観察するのがベスト。車からの観察もよい。

探鳥会 日本野鳥の会・新潟県野鳥愛護会の上越地区合同探鳥グループが、秋～春に数回開催。問い合わせ先/古川 弘 ☎0255-24-9617

参考：日本海側に渡来するヒシクイは大部分がオオヒシクイで、亜種ヒシクイは少数である。すぐ近くの鶺鴒の池もよい。